

「11月のある日のドッジボール」年長5歳児
 周りの枠内は「育ってほしい10の姿」と、その場での保育者の援助です。

ドッジボールは、ルールのある集団遊びです。ボールを投げるのが楽しいと感じる子、逃げるのが楽しいと感じる子、そして友達のボールをキャッチできるようになりたい子等、思いは様々です。「僕が先にボール取ったよ。」「違う私!!」といったようなトラブルもたくさん見られます。友達とどのように折り合いをつけていくのか等、ドッジボールの遊びでも、いろいろな学びにつながっていきます。

(1) 健康な心と体

- 遊びの仲間となって、遊びの中で投げる、逃げるなどの動きが活発になるように関わっている。
- よい動きを積極的に認めている。

(3) 協同性

- 人数にずれがあることが分かっていることや、今の困り感を伝えられ、一緒に楽しもうという気持ちでいる姿を認めている。
- 友達の考えを聞いて、自分の気持ちを調整しようとしている姿を認めていく。

(3)

今はチームの人数が違うことに気付いて、〇〇君に頼んだんだね!

こっちのチーム、今一人足りないんだよ～仲間になって!

本当だ、いいよ。一緒にやるよ!

ボールが来るにげよう!

(5) 社会生活との関わり

- 兄弟と地域の公園でボール遊びに入れてもらったこと、経験を聞き、投げられることへの期待につなげる声をかけている。

(5)

お兄ちゃんに教えてもらってよかったね! 上から投げられるかも!

お兄ちゃん、上から投げていたんだ。

ボールをよく見て逃げているね、いい動きだよ。

あと二人当てたら勝ちだ。

(8)

相手のチームはあと2人になったね。勝負がつくかな!

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- チームの人数決めや、勝敗のときの人数を幼児が数えられるよう工夫し、数量への関心や感覚をもてるようにしている。



ボール、先生の方に飛んでいくよ、動けば捕れるんじゃない!

もう! ちっともボール捕れない、いやだな。

(6)

どこにいたら捕れるのかなあ、ちょっと考えてみようよ。

〇〇ちゃん、いい感じ! 頑張って!!

(10)

〇〇ちゃん、□□ちゃんに認めてもらって喜んでいよ。

(4)

ルールを守って遊ぶから楽しくなるよね。

当てられて悔しいけど陣地の外に出よう。

さっき初めてボール捕れた! よおーし、次も捕るー。

気持ちの切り替え

- 悔しい気持ちを切り替えるのには、少し時間が必要なので、悔しさを共有し、そばにいてほしい気持ちに寄り添っている。
- 気持ちが落ち着いたときに、またやってみようという気持ちを後押しする言葉を無理なくかけている。

(2)

すごいよ! ボール捕れたね。先生もうれしい!

先生も悔しいよ。次は勝てるようにやってみようよ!

負けちゃって悔しいかもやらない。

(2) 自立心

- 遊びの中でそれぞれが頑張りたいと思っていることに向かって取り組む姿を認め、達成できたことを一緒に喜んだり共感したりすることで自信につなげている。

(6) 思考力の芽生え

- ボールをうまく投げたり捕ったりするにはどうしたらいいのかわ、幼児と一緒に考えたり方法を助言したりしている。

(10) 豊かな感性と表現

- 初めてボールが捕れた友達の様子を見て、優しく声をかけている素直な感情表現を認めている。
- 応援された友達の気持ちを、伝えている。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

- ルールを守ることによって遊びが面白くなるということ伝えることで、ルールを守る大切さに気付かせている。
- 遊びの様子に合わせてルールを変えることなどを一緒に考える時間を作っている。